



技術参与
大嶋 善一
〔直売所営農指導担当〕

* 今月号は私が担当しました。

玉ねぎの冬どり栽培



玉ねぎは、野菜の中でもキャベツとともに最も食べられている野菜の一つで、直売所などでも年間を通し欠かせない野菜です。冬の時期は、春収穫した貯蔵物や北海道産の玉ねぎが出回りますが、比較的品薄な時期です。

この時期にフレッシュな玉ねぎを作って食べてみませんか。そこで今回は、玉ねぎの冬どり栽培を紹介いたします。

一般的な春どり栽培は、9月に播種し、11月に苗を移植、5月～6月に収穫・出荷します。冬どり玉ねぎの場合は、8月下旬にセッ

ト球を植え付ける栽培です。セト球は「ホームたまねぎ」や「オニオンセト」などの名称で販売されています。今回はセト球作りから紹介します。

セト球は、玉ねぎの種子を3月中下旬に播種し、5月中下旬に直径2cm程度の小玉で掘り上げます。これをセト球と言います。セト球は一旦貯蔵しておき、その年の8月下旬に畑に植え付けます。その後、肥大をはじめ、11月から収穫する栽培方法です。播種からの栽培を紹介しますので、是非、挑戦してみてください。

1 栽培概要

- (1) 品種 シヤルム
(タキイ種苗の極早生品種)
- (2) 播種期 3月中下旬
- (3) セット球掘り上げ
5月中下旬に球の直径2～2.5cmで掘り上げる。
- (4) セット球貯蔵
掘り上げ後、セト球は風通しの良い場所で貯蔵しておく。
- (6) セット球の植付時期
8月下旬～9月上旬
- (7) 収穫 11月中旬～2月頃

2 栽培のポイント

(1) 播種床の肥料は、苗が徒長して倒れると玉の充実が悪くなるので入れすぎに注意してください。

い。肥料は成分でm当たりN 10g、P 20g、K 10g程度とします。

(2) 掘り上げは、玉の直径が2～2.5cmとし、分球しやすくなるので、玉の大きさは3cm以上にならないください。



- (3) 植付は8月下旬から9月上旬(8月30日前後)を必ず守ってください。早すぎたり遅すぎたりすると十分な肥大が期待できません。
- (4) 暑い時期の植付なので、マルチは白マルチや白黒マルチを使用して、地温を上げないようにします。
- (5) 収穫は、倒伏したものをから収穫します。なお、直売所で新玉としてアピールするなら葉付きも良いでしょう。

3 留意点

冬どり(セト玉ねぎ)栽培は、少しコツのいる作型なので、とう立ちや分球の発生を少なくするため上記のポイントを必ず守ってください。



収穫した玉ねぎ



収穫始めのほ場



セット球の植付

